

2024 年度
自己点検・自己評価 報告書

学校法人阪和学園
錦秀会看護専門学校

1. 教育理念・目的・目標

1) 学校の教育理念・目的・目標の設定

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(1)教育理念は明文化している。	○		
(2)学校独自の教育理念を持っている。	○		
(3)教育理念・目的・目標は人材育成の内容と一致している。	○		

2) 教育理念・目的・目標の達成

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(4)教職員は教育理念・目的・目標について認識している。	○		
(5)教職員は教育理念・目的・目標に向けて努力している。	○		
(6)学生は教育理念・目的・目標を理解している。	○		

3) 教育理念・目的・目標の点検

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(7)教育理念・目的・目標と教育課程の考え方が一貫している。	○		
(8)教育理念・目的・目標は年一回点検している。			○

「1. 教育理念・目的・目標」に関する取組の概要と今後の課題

教育理念として「“やさしく生命をまもる“ことができるよう、感性豊かな人間性と倫理観、科学的思考力をもとに、主体的に判断し実践する能力及び専門職業人としてのそれぞれの役割を果たせ得る基礎能力を養う」を掲げ、教育目的・教育目標についても一貫性をもって設定している。これらは、学生便覧、実習要綱、ホームページに明記している。特に、本年度は、教室および教務室に教育理念・教育目標を掲示し、教職員及び学生が常に意識するよう努めた。

また、教員が教育理念をどのように捉えているのかというアンケートを実施し、日々の教育の中で教育理念を具体的にどのように実践しているかを各自が言語化することで確認に努めた。今後とも、看護師養成所の役割を果たすことができるよう、常に社会のニーズを踏まえながら内容の点検を行っていくことが必要である。

2. 学生の受入れ

1) 学生募集の方法

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(1)学校の教育理念・目的・目標を反映した学生募集方針を定めている。	○		
(2)入学定員を明示している。	○		
(3)総合型選抜・学校推薦型選抜・社会人選抜・一般選抜入試制度の有無は明記している。	○		

2) 入学者選抜方法

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(4)入学者選抜の方法は明示している。	○		
(5)合格基準は明確にしている。	○		

(6) 転入学の方法・基準を明文化している。	○		
------------------------	---	--	--

3) 学生募集の広報

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(7) 学生募集要項を作成し、看護の情報を提供している。	○		
(8) 志願者が関心を持つように工夫されている。	○		

4) 学生定員の充足状況

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(9) 在学学生は定員の 95%以上を充たしている。			○
(10) 合格者からの入学率は 90%以上である。	○		
(11) 学校推薦型選抜入試の入学生は定員の 60%以内である。	○		

5) 学生募集に関する分析・評価体制

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(14) 広報委員会が定期的に開催されている。	○		
(15) 志願者・合格者・入学者などの推移とその評価がなされている。	○		
(16) 多様な選抜方法と学生の状況について検討している。	○		

「2. 学生の受入れ」に関する取組の概要と今後の課題

少子化に加え、学生・保護者の大学志向が高まる中、看護専門学校を志望する学生が年々減少している。こうした状況に対応するため、広報委員会とオープンキャンパス委員会において協議を重ね、積極的な取り組みを展開した。具体的には、学生の受験機会を増やすため一般入試の回数を2回から3回に増やすとともに、社会人の受験者が受験しやすくなるよう、入試日程の見直しを行った。

また、オープンキャンパスについても、前年度の4回から7回に増やすとともに、精力的に学校訪問を行ったが、2025年春に入学する第8期生は初めて定員割れとなった。

今後とも、より一層学校間競争が激化すると考えられることから、選ばれる専門学校となるため、SNSなども活用しながら、学生が日々どのように学び成長しているかをわかりやすくPRしたり、国家資格取得後の未来を描けるよう定期的に卒業生の活躍を発信したりするなど、多様で効果的な学生確保対策に取り組んでいくことが必要となっている。

3. 学生生活への支援

1) 健康管理

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(1) 定期的に健康診断を実施している。	○		
(2) 学生が日常生活の健康管理ができるよう指導している。	○		
(3) 臨地実習での感染防止の対策をとっている。	○		
(4) 健康記録は的確に記載し、活用している。	○		

2) 学生相談室、進路相談室の設置と対応

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(5) 学生相談の窓口を設けていることを学生に周知している。	○		
(6) プライバシーが保持されるシステムができている。	○		
(7) 学生相談の専任のカウンセラーを置いている。	○		

3) 学生委員会活動への支援

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(8) 学生委員会活動が円滑にいくために助言・指導している。	○		
(9) 他学年と交流の機会をもっている。		○	

4) 福利厚生

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(10) 奨学金制度について学生に周知している。	○		
(11) 学生は傷害保険に加入している。	○		

「3. 学生生活への支援」に関する取組の概要と今後の課題

入学後に配布する健康手帳に、在学中の健康状態や検査結果などを学生自らが記載、貼付を行うことで健康管理について自覚が持てるようにしている。学生の委員会活動については、学生自らが企画運営する委員会活動までには至っていないが、年間スケジュールで予定されている行事等に関しては、しっかりと参加・活動しており、参加学生が自由に意見を述べられるような機会も設けている。

奨学金制度については、日本学生支援機構など公的なものだけでなく、医療施設の奨学金制度の紹介、金融機関や信販会社の教育ローンについても紹介するなど、それぞれの学生の状況に応じて学びを継続できるよう支援している。

次年度は互いの学びを深めるために、上級生が入学オリエンテーションを担うなど、他学年との交流の機会を検討する。

4. 教育課程

1) カリキュラムの立案

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(1) 教育理念・目標にあった科目設定をしている。	○		
(2) 教育科目設定には学校の特色を盛り込んでいる。	○		
(3) 科目設定には学習者・社会のニーズを考慮している。	○		
(4) 指定規則に合致した科目・単位を設定している。	○		

2) カリキュラムの効果的編成

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(5) 教育理念・目標にあった科目設定をしている。		○	
(6) 科目の位置づけと科目間の関連性を明示している。		○	
(7) 臨地実習目標は明確に計画されている。	○		

3) カリキュラムの点検・見直し

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(8)カリキュラムの見直しは、定期的（年1回）に行っている。		○	
(9)カリキュラムの見直しは学生・講師・教員の意見を定期的に反映している。		○	
(10)臨地実習の計画・指導は効果的であるかを定期的に見直している。		○	

「4. 教育課程」に関する取組の概要と今後の課題

本年度3月、新カリキュラムで学んだ学生が卒業した。新カリキュラムでは、河内長野市南花台という地域で看護を学ぶ特色を取り入れた。

今後も、地域とのつながりを大切に、地域から信頼される学校、愛される学校を目指すことが求められる。一方で、新カリキュラムが一巡したこと、新しく取り入れた地域・在宅看護論領域の科目や、地域で行ったヘルスプロモーション実習などが、学生の学びに分に効果が得られたかどうかについて評価を行うことも必要である。

5. 教育活動・教育指導のあり方

1) 学習支援（ガイダンス）

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(1)年度初めにカリキュラムガイダンスを行っている。	○		
(2)学生便覧は内容・構成が工夫して作成され、学生が活用している。	○		
(3)シラバスが作成され活用について学生に説明している。	○		

2) 授業の計画的遂行・調整

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(4)授業計画に基づいて授業は実施している。	○		
(5)時間割の進捗は、授業計画通りに行われている。		○	
(6)科目毎の授業内容を整理し、担当者へ周知している。	○		
(7)必要に応じてオンラインでの授業が行われている。	○		

3) 授業科目の担当および時間

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(8)科目を担当する教員（専任・非常勤）は専門分野についての専門家が担当している。	○		
(9)教員一人当たりの週授業時間数は15時間以内である。		○	
(10)教員の実習担当時間数は3時間ごとに1時間程度の準備時間が見込まれている。		○	
(11)教員間の講義・実習担当時間の配分はほぼ均等である。			○

4) 教育の工夫・研究

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(12)授業内容は精選され、学生のレディネスに沿って構成されている。		○	

(13) 学生が自主的に考え、学習することが可能な授業形態が導入されている。	○		
(14) 視聴覚教育機器・教材の質と量は十分で、効果的に活用されている。	○		
(15) 効果的な教育方法について、検討の場を持っている。		○	
(16) 教育において日常的に教材研究を行っている。			○

5) 授業評価

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(17) 教員は授業終了時に、学生による評価を実施している。	○		
(18) 学生による評価は評価表を作成し行っている。	○		
(19) 教員自身による自己評価を実施している。			○

6) 単位互換

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(20) 大学・短大・専修学校への単位互換が可能な科目設定・時間設定である。	○		
(21) 大学（短大）卒の入学生に単位の認定制をとっている。	○		

7) 成績評価・単位認定

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(22) 評価の方法は試験・出席・学習状況・レポートにより行われている。	○		
(23) 授業科目毎に評価者と単位認定を明示している。	○		
(24) 追試験・再試験・単位未修得者の評価基準を明確にしている。	○		
(25) 進級・進度の基準を明示している。	○		
(26) 履修認定会議・卒業判定会議は定期的に開催している。	○		

「5. 教育活動・教育指導のあり方」に関する取組の概要と今後の課題

新入生には入学後、カリキュラムガイダンスを行うとともに、在学生には進級ごとにシラバスの配布と学生便覧の説明を実施している。

授業は、授業計画に基づいて実施しているが、非常勤講師による授業も多いことや専任教員は臨地実習指導と重ならないよう計画する必要がある中で、可能な限り学生にとって適切な授業進度になるように努めた。

課題としては、授業科目についてキャリアの長い教員の時間数が多く、臨地実習指導が多い教員の授業時間が少ないなど一部不均等な部分が生じていることや、休学を繰り返すなどして在籍期間が長くなった一部の学生において、在籍学年と履修科目のミスマッチが起きていることなどがあげられる。

6. 実習指導体制

1) 実習場の開発

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(1) 実習科目の目標・内容に見合った実習施設を確保している。	○		

2) 実習指導体制

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(2)実習要綱は各看護学毎に作成している。	○		
(3)実習指導者会議は定期的開催している。	○		
(4)実習指導体制が明確にされ、指導者は1看護単位に2名以上配置されている。	○		
(5)実習指導者は実習要綱を元に指導計画を立案・実施・評価している。	○		
(6)実習指導員と教員は、役割分担を明確にして指導している。	○		
(7)実習指導者は学生の看護ケアに適切にアドバイスできている。	○		
(8)実習指導者は看護実践の創意工夫に努める姿勢がある。	○		

「6. 実習指導体制」に関する取組の概要と今後の課題

新カリキュラムでの実習が本年度からスタートし、地域とのつながりを取り入れたカリキュラムによって、アクティブエイジング実習・ヘルスプロモーション実習を行った。

実習は多くの施設で実施しているが、その指導者と入念に打ち合わせを行い実践している。特に、長く臨地実習を実施させてもらっている施設では、よい関係性が築けているため、教員との連携もよく、指導内容を共有し学生に一貫した指導ができている。

科目によっては、実習先の確保に苦勞しているものもあり、新たな実習施設も含めた実習先の確保が課題となっている。

7. 研究・研修活動

1) 教員の研究活動

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(1) 教員は専門領域の研究活動に取り組み、その内容を公表している。			○

2) 研修活動への積極的参加と教員の活動

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(2)教員は年1回以上、自主的に研修に参加している。		○	
(3)教員は、専門領域の臨地実習、研修を担当している。	○		
(4)教員が研修に参加できるようシステム作りをしている。		○	
(5)教員は対外的に講師としての役割を果たし、活動している。	○		

「7. 研究・研修活動」に関する取組の概要と今後の課題

専任教員は、各自の専門領域や役職に応じて研修会に参加しているが、本年度より役職やラダーに応じた各種研修参加の機会を設けた。また、例年参加後に報告書を提出していたが、学びを共有するために、本年度から伝達講習会に努めている。

また、地域へ貢献を目的に、南花台公民館で開催される「健康講座」に講師として参加しており、今後とも継続して参加する予定である。

教員個別の専門領域の研究活動については、現状ではほとんど取組めておらず課題である。

8. 組織管理・運営

1) 学校の組織と関連組織の整備

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(1)教員組織、事務組織は専任者が配置され、運営しやすい組織図ができています。	○		
(2)教員組織と事務組織は適正に連携している。	○		
(3)教員組織は運営に必要な人数と職種が配置されている。		○	
(4)事務組織は運営に必要な人数が配置されている。	○		
(5)各職員が命令系統に沿ってその役割を果たしている。		○	
(6)教員の人事について副学校長・学科長は意見を具申している。		○	
(7)教員の将来方針を把握し、助言している。		○	

2) 教師・実習者の要件

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(8)講師の資格要件を取得できるようにしている。	○		
(9)非常勤講師は資格要件をもとに選考している。	○		
(10)実習指導者の資格要件を取得している。	○		

3) 教員人事の適正配置

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(11)教員は看護学の専門領域毎に配置されている。	○		
(12)副学校長は専任で配置されている。	○		
(13)学科長は専任で配置されている。	○		
(14)実習調整者は専任で配置されている。	○		

4) 職員の職務分掌

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(15)職務分掌は作成している。			○
(16)学校長は職務分掌に沿ってその役割を果たしている。		○	
(17)副学校長は職務分掌に沿ってその役割を果たしている。		○	
(18)事務長・事務長補佐は職務分掌に沿ってその役割を果たしている。	○		
(19)学科長・実習調整者は職務分掌に沿ってその役割を果たしている。		○	
(20)教員は職務分掌に沿ってその役割を果たしている。		○	
(21)事務員は職務分掌に沿ってその役割を果たしている。	○		

5) 会議への参加運営

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(22)副学校長は学校運営会議に出席し、必要時意見を述べている。	○		
(23)学校運営会議は定期的に開催している。	○		
(24)教員・カリキュラム会議は定期的に開催している。		○	

(25) 講師会議は定期的に開催している。	○		
-----------------------	---	--	--

6) 学籍の管理

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(27) 学籍簿は学籍の記録、履修状況が正確に記載され、証明機能を備えている。		○	
(28) 学籍簿は保管が適切になされ、秘密が守られている。	○		

「8. 組織管理・運営」に関する取組の概要と今後の課題

教員、事務職員とも、それぞれのポストに与えられた役割・責任の着実な遂行に努めた。本年度中に業務分掌のブラッシュアップを予定していたが、実現には至らなかった。

年々学生指導に時間がかかることが多くなってきている中、教員体制の充実が望まれるが教員の確保には苦労しているところである。開校時に前身の学校から引き継いだ学籍データの一部に不備等が見つかったため、それらのデータを点検・整備するとともに、専門学校に特化した学務システムへのシステム入替を実施した。

今後は、導入したシステムをより効果的に活用することにより、教員の業務の軽減につなげていくことが必要である。

9. 施設設備

1) 校舎の整備と管理

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(1) 看護学別に演習できるような実習室の配置（物品等）がされている。	○		
(2) Wi-Fi 環境は整っている。	○		
(3) コンピューターを備えた部屋を有している。	○		
(4) 専用の図書室を有している。	○		
(5) 体育館または講堂を有している。	○		
(6) 校内施設利用規程は作成している。	○		
(7) 施設利用規程には学生の自己学習に使用できるよう配置している。	○		

2) 学生支援施設の整備と管理

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(8) 保健室がある。	○		
(9) 学生相談室が設置されている。		○	
(10) 自習室の整備ができている。	○		
(11) 学生用トイレ、更衣室がある。	○		
(12) 学生ホールは交流の場として活用している。	○		
(13) 学生ホールは整備され、憩いの場作りができている。	○		

3) 図書室の整備と管理

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(14) 図書室および資料は分野ごと、領域毎に分類され整理されている。	○		

(15)蔵書数は学生数に見合った十分な冊数である。	○		
(16)専門分野は専門領域毎に計画的に増補している。	○		
(17)学術雑誌は指定基準以上の種類を有している。	○		
(18)視聴覚機器が整備されている。	○		
(19)図書と学術雑誌およびビデオ・DVD等の整備点検はできている。	○		
(20)司書を配置している。	○		
(21)学生が利用しやすい時間帯に開室している。	○		
(22)新刊図書の紹介をしている。	○		
(23)必要な図書整備の予算計画ができている。	○		
(24)文献検索のためのインターネットの設備がある。	○		

4) 教材の整備と管理

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(25)教材教具は定期的に点検を行っている。		○	
(26)専門領域毎に教育内容に合った教材を増備している。	○		
(27)機械・器具、標本、模型は学生数に見合って十分な数を整備している。	○		
(28)ビデオ・DVD等、視聴覚教材は自己学習に使用できる。	○		
(29)教材購入の経費は年次毎に計画し増備している。	○		

「9. 施設設備」に関する取組の概要と今後の課題

各教室、学習支援施設、図書室は整備され、維持されている。Ggoogle クラスルームの利用が活発になり、安定的な環境が不可欠となるため、高速回線を配備するとともに、ネットワーク印刷に対応した印刷機を設置し、環境整備を実施した。

図書室だけでなく、学内のスペースで自己学習に取り組む学生が増えたため、学習可能なスペースに複数台のストーブを設置した。充実した環境が提供できるよう、今後も学生アンケートからの意見収集を継続していく。

10. 社会への貢献

1) 地域社会との連携と社会への啓蒙

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(1)看護教育および看護の情報を公開し、広報活動を行っている。	○		
(2)学校行事は地域社会を考慮して教育計画に位置づけている。	○		
(3)地域への働きかけは社会のニーズに応じた内容である。	○		

2) 近隣関連施設との連携

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(4)近隣施設へのボランティア活動に積極的に参加している。		○	
(5)地域に学校を開放している。		○	
(6)近隣関連施設との情報交換および連携システムができている。		○	

「10. 社会への貢献」に関する取組の概要と今後の課題

地域で開催されている南花台夏祭りへの出店や、健康講座への講師派遣、学内の授業への地域住民の参加など、地域との交流を活発に展開している。また、本年度は、新型コロナの影響で中断していた地域住民も参加するスポーツ大会を再開した。こうした取り組みに加え、開校8年が経過し、地域住民への認知度は高まってきている。

今後は、本校の卒業生が地元で活躍するなど、より地域に貢献できる学校となっていくことが望ましい。

11. 予算

1) 事業計画

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(1) 学校の事業計画を立てている。	○		
(2) 事業計画は学園の全体計画の中に適切に位置づけられている。	○		
(3) 中・長期目標の執行計画が立てられている。		○	

2) 予算の執行

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(4) 年間の予算計画・執行状況を把握し、必要に応じて修正している。	○		
(5) 職員は収支の状況を把握している。		○	

3) 経営意識

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(6) 職員全員が経営意識を持っている。		○	
(7) 職員は歳出削減に向けて努力している。		○	

「11. 予算」に関する取組の概要と今後の課題

年間予算とその執行状況は、毎月開催する学校運営会議に報告することを通じて、職員への情報共有を行っている。学生確保の環境が厳しくなっていることに加え、物価高騰が続いている中、より一層効率的・効果的な運営が求められている。

今後は、収支状況についての職員への情報提供について、より一層工夫を凝らすとともに、職員から提案を募ることも含め、経費削減のための取り組みを推進することが必要である。

12. 学校評価

1) 自己点検・自己評価

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(1) 学校自己点検・評価のシステムが作られている。	○		
(2) 自己点検・評価に必要な基礎データ等の整備がなされている。	○		
(3) 自己点検・評価を定期的実施している。	○		
(4) 自己点検・評価の結果を公表している。	○		
(5) 評価を次年度に活かしている		○	

「12. 自己点検・自己評価」に関する取組の概要と今後の課題

本年度は、評価項目が、学校を取り巻く環境や現状を踏まえてよりふさわしいものとなるよう見直しを行った。そのため、昨年度との比較は困難になったが、今後はこの項目により経年比較も行っていく予定である。

また、例年、中間評価（9月）と年度末評価（2～3月）を行っていたために、どうしても各項目がどの評価に該当するかのチェックが中心になっていたが、今後は年に一度の評価に変更することで、評価の分析や評価結果に基づく対応にも力を入れていく予定である。